

令和2年度第2回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会（書面開催）会議録

- 資料送付 令和 2年12月25日（金曜日）
- 意見書提出期限 令和 3年 1月14日（木曜日）
- 委員 別紙のとおり
- 書面協議内容 第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画の地域課題と取組の例（案）について

以下、委員意見・質問と事務局回答

No	計画の柱				対象地域	委員意見・質問	事務局回答
	I	II	III	IV			
1	●				全域 (鶴以外)	SNSの活用を追加してはどうでしょうか？SNSはどの地域においても今後、不可欠なツールだと考えられます。温海地域はICTの活用とありますので追加はないと思われま	今後は、感染症対策はもとより、インターネットやスマートフォンで情報収集する人が増えている状況をふまえ、SNSの活用など地域住民を惹きつける情報発信や事業企画・運営の工夫などが必要になることから、全地域で取組例に「SNSの活用」等を組込むこととします。
2	●				全域	鶴岡地域の広域課題①にある「SNSの活用など新しい生活様式の導入」は全域で進めるべきことではないか。	
3	●			●	全域	こども、若者の地域への参加が、地域コミュニティには重要で、また難しい点であると思いますが、今までの事業の進め方と併せて、色々な場面でDX化（デジタルトランスフォーメーション）を考える必要があるのだと思います。学校でもタブレット配備になる時代。例えばSNSでは、広域地域同士つながりの強化、各種NPO等との連携、それによる地域の魅力の発信や、逆に魅力の集約。プラットフォームの提供により各地域でハードルを下げ取り組めるのではないかと思います。	現在の、インターネットやスマートフォンで情報収集する人が増えている状況をふまえ、今後は、ホームページやSNSを用いて活動内容などを積極的に発信したり、回覧板や役員会議、お茶のみサロンなど日常の活動にもSNSを活用したりするなど、つながり方の幅が広がるような取組を推進したいと考えており、全地域で取組例に「SNSの活用」等を組込むこととします。
4	●			●	全域	中心部と比較し、世帯数の少ない周辺地域の個人負担が多く、増々住みにくくなっている。個人負担は市内どこでも同じ環境を作った方がよいと思う。	町内会・住民会等の活動は任意組織の活動であることから、活動内容も様々であり、負担金についてもそれぞれの組織で設定しており、市で基準額を決めることはしていません。
5	●				全域	他の地区についても、表現の違いはあるものの、ほぼ同内容になっていますので、あとはどなたがリーダーシップを発揮していくかにかかっていると思います。	第2期計画では、人材発掘や育成、確保、人的負担軽減などを図ることが喫緊の課題であると考えており、地域ビジョン策定等のプロセスを通して、地域を引っ張るリーダーや中核的グループなどが育成されていくものと期待しております。

No	計画の柱				対象地域	委員意見・質問	事務局回答
	I	II	III	IV			
6		●			全域	鶴岡地域のみ市の災害時要援護者避難計画に基づく要支援者等への取組みについて具体的に記載されていますが、実際の取組みに関して、各地域ごとに差異があるのかをご教示ください。	<p>●藤島地域：（単位）課題④「広域コミュニティ組織と一体となった安全・安心な体制づくり」の取組例の「自主防災計画の見直しなど自主防災組織の機能点検の実施」「緊急時や災害時に備えた住民情報の収集とその適正管理」に含んでいると考えています。</p> <p>●羽黒地域：対象を要援護者に限定せず「共助の強化」を図るねらいとして、単位④に「有事に備えた住民情報の把握と見守り」をあげています。</p> <p>●榎引地域：（単位）課題④「緊急時や災害時に備えた住民情報収集の必要性の確認及び、取り扱い方法、活用方法の確立」に含んでいると考えています。具体的には「災害時における要援護者リスト及びマップ」を榎引地区民生児童委員協議会で作成し、地区区長へ配布されています。</p> <p>●朝日地域：対象を要援護者に限定せず、（単位）課題③で「地域の消防団や行政と連携し、有事の際には地域に住む人たちが協力しあえる仕組みづくり」としてあげています。</p> <p>●温海地域：鶴岡地域と差異はありませんが、まだ具体化されておりません。</p>
7		●			全域	温海地域の単位課題④にある「各戸へのICT等を活用した通信設備の配備と地区防災計画の作成」は全域で進めるべきことではないか。（行政の役割？）	平成25年に災害対策基本法が改正され、市町村の一定の地区内の居住者当による自発的な防災活動に関する「地区防災計画制度」が創設されたことを受け、市では地区防災計画の作成が円滑に行われるように支援を行っています（市のコミュニティ施策。令和2年度は広域コミュニティ組織単位での作成を進めているところ。単位自治組織は令和3年度以降）。
8		●			全域	例えば鶴岡地域の単位⑤の「災害に～体制づくり」は「女性や現役世代の参加に基づく」という視点を加えた方がよいのではないか。（他地域も同様。複数課題の融合の検討）	仮に日中の災害発生では、消防団はじめ現役世代は地域に不在となる場合が多く、地域に居合わせた全ての住民の協力体制のもとに避難誘導の声掛けや安否確認を行うことになるため、特に「女性や現役世代の参加に基づく」視点は組み込まませんが、（単位）課題⑤の説明文では「災害に強いコミュニティをつくるには、日頃からの、地域における顔のわかる関係や絆づくりが重要」としており、女性の力が発揮されるものと期待しております。 なお、それぞれの地域課題と取組例はシンプルに、分かりやすい言葉で示すようにしており、複合的に取組むことでより一層地域コミュニティが活性化されるものと考えております。
9		●			全域	（2期案）の羽黒地域（単位）課題④4つ目空き家のことがあります。コミュニティの中で色々なかたちで協力して情報を集めることも必要だと思います。	空き家が増加傾向にあるため、全地域で取組例に「空き家情報の把握と市への情報提供」等を組み込み、早期の所有者の特定に町内会・住民会から協力をいただき、適正管理や解体、活用を促すなどして、空き家の長期化・老朽化を未然に防ぎます。 また、市としても、空き家実態調査を実施し、調査情報は単位自治組織に提供するなど連携を図り、活性化につながるよう空き家などの活用を推進します（市のコミュニティ施策）。
10		●			全域	全域を通じて、課題解決力を向上させるのに必要不可欠な「学習機会（情報、地域、方法、手法、スキルなどを得られる場）」及び「事務局体制（広域）の検討（研修、人員配置等）」が必要と考える。但し、いずれも行政の役割か。	第2期計画では、人材発掘や育成、確保、人的負担軽減などを図ることが喫緊の課題であると考えています。人々が集う場をつくり出す企画力、住民の想いを引き出すファシリテーション力、その想いを実現するコーディネーション力が必要であり、そういったスキルを向上できるような研修会を開催するなど、住民主体の地域づくりを全面的に支援できるように市のコミュニティ施策に組み込んでおります。

No	計画の柱				対象地域	委員意見・質問	事務局回答
	I	II	III	IV			
11			●		全域	自治組織の組織図、活動内容等、多くの住民はよく理解していないのが現状だと思います。知らない興味を持つこともできないと思うので、わかりやすい興味を引く、組織地図・活動地図などで幅広く住民の、特に若い世代の理解を深めていくことは必要だと思います。すそ野を広げなければならないのは共通認識だと思うので。	住民自治組織がどんな活動を行っているか知ってもらい、関心を持ってもらうために、これまでのチラシや会報に加え、ホームページやSNSを活用して活動内容をアピールするなど発信方法の工夫が重要になってくると考えられます。また、地域ビジョン策定など地域課題解決に取り組む機会をとらえて、小中高生や大学生、若い世代などを含めた多くの地域住民が参加してワークショップを行い、地域の課題を認識・共有していくプロセスを経ることで、我が事としての地域づくりが進められるように取組を推進していきたいと考えています。
12			●		全域	羽黒地域、温海地域においてはコミュニティスクールの推進の具体的な表記が必要と思われます。	●羽黒地域：小中学校において既に生徒と地域の大人が関わる活動を実施しており、コミュニティスクールに類似した制度（評議員）も設置されていることから、羽黒管内の3校は既存の制度のもと先進事例を参考に検討する意向のため、2期計画においてはコミュニティ活動を協働活動に変え、今の体制の充実を図るとしています。 ●温海地域：（単位）課題④の取組例を「小学校及び中学校と地域との連携及び地域活動の推進」→「地域と学校の連携・協働によるコミュニティスクールの導入と地域学校協働活動等の推進」に変更しました。
13					全域	例えば、藤島地域で、計画の柱II「住民の安心・安全な暮らしの確保」（単位）課題⑤「地域福祉を近隣の輪で支える体制を再構築」の手段と、計画の柱III「住民主体による地域課題解決力の向上」（単位）課題⑤「地域福祉を近隣の輪で支える体制を再構築」の手段がまったく同じ内容で掲示されています。	目指すコミュニティ像に近づくために必要なことを4つの柱として掲げ、それぞれに課題を関連付けています。このため、複数の柱に関係する課題もありますが、取組例は課題を達成するための手段の例として同じ内容で構成しています。
14	●				鶴岡	順番案について（単位） （単位）課題②情報発信と会員確保→課題③にする （単位）課題③活動の担い手となる人材育成と確保→課題②にする 順番の代替理由：活動を考えた場合重なる部分があると思われるから。	住民自治組織にとって、担い手となる人材の確保と育成は喫緊の課題であることから、順番を入替し、（単位）課題②「活動の担い手となる人材の確保と育成」（単位）課題③「情報発信と会員確保」に変更します。
15	●				鶴岡	（広域）課題①「時代に調和する運営や事業展開と持続可能な組織づくり」とあるが“時代に調和”というより適応ではどうでしょうか？例えば時代に適応、時勢に適応、時代の変化に適応など。専門用語があるのかわかりませんが…	（広域）課題①「時代の変化に適応する運営や事業展開と持続可能な組織づくり」に変更します。
16	●				鶴岡	鶴岡地域の第2期計画の担い手の一つに大学生が想定されているのは興味深いと思いました。少なくとも山形大学農学部学生の多くは、これまで自治会活動に関わることは少なかったと思います。しかし、広い意味での地域振興に貢献したいという学生は多いと感じますし、そうした学生にとって地域コミュニティ活動實際を目にする機会は貴重な経験になると思います。山大農学部の学生の多くは卒業後鶴岡を離れますが、そうした学生も巻き込めるような機会ができること期待したいと思います。なお、大学生の参加という点では、計画の柱Iよりも柱IIIや柱IVのほうが、参加しやすいのではないかと思います。	「地域に住んでいる大学生をもっと巻き込んで活動していきたい」旨の意見をふまえ、（単位）課題②の担い手として大学生も想定しました。 他にも、地域住民としてのワークショップ参加や、地域課題解決の実効性を高めるための連携先として大学・大学生も想定しております（（広域）課題②説明文）。 なお、（広域）課題②は、地域の現状や課題の把握のみならず、魅力や価値についても共有し、活かしていくことから、計画の柱IVを追加することとし、柱II・III・IVに関連する課題として整理します。
17	●				鶴岡	（単位）課題①「将来を見据えた持続可能な組織づくり」の9点を仕上げていけば、課題のほとんどが解決可能に思います。素晴らしい計画と思います。	いずれの取組例も既に実施している単位自治組織があります。事例発表等の機会を設け、他の住民自治組織から情報共有いただくことで、このような取組を有機的に結びつけ実行し、組織強化が図られることを期待しています。
18		●			鶴岡	鶴岡地域のP4の右上3行目は「グループワーク」ではなく、「ワークショップ」もしくは「対話の場づくり」？	課題解決のための地域コミュニティ活動であることから、「ワークショップ」に変更します。

No	計画の柱				対象地域	委員意見・質問	事務局回答
	I	II	III	IV			
19			●	●	鶴岡	柱III、柱IVに関係して、NHK文化センター庄内教室が今年3月までで閉鎖されると聞いていますが、同センターで開催されている教室のなかには、内容の面で、生涯学習などコミュニティ関係の事業と重複するものも含まれていると思います。文化センターの閉鎖にともなうそうした文化的な活動（集会）自体がなくなってしまうのではなく、コミュニティ関係の事業として継続できるようなサポートがあるとよいと思います。	各広域コミュニティ組織等では住民ニーズを考えながら地域に根差した様々な生涯学習事業を開催しています。内容によってはNHK文化センターでの教室に匹敵するような事業を行っている地域もありますが、試行錯誤を繰り返し工夫しながら企画・運営をしており、市では、広域コミュニティ組織等に生涯学習推進員を配置し、広域コミュニティ組織の職員等と連携を図りながら生涯学習事業を企画・実践するとともに、市民の多様な学習・交流活動を支援していきます。
20			●		鶴岡	（単位）課題④「地域課題の解決に向けた取組みの実施」の手段で、関係組織との連携や広域自治組織との役割分担など課題解決に取り組むための仕組みづくりについて、（広域）の方にも入れた方が協働しやすいのではと思います。	（広域）課題②「『地域ビジョン』策定など地域課題解決に向けた取組の強化」の取組例「課題解決に取り組むための仕組みづくり（関係組織との連携や組織体制の見直しなど）」には、単位自治組織も含まれると考えておりますが、イメージできるよう説明文の例示に加えることとします。
21			●		藤島	計画の柱IIIでは、地域福祉のみならず地域課題はたくさんありますので、その活動のための「しくみづくり」を強調してはいかがでしょうか。	地域福祉以外の課題を把握することも必要ですので、（単位）課題⑤取組例に「課題や将来像を共有する場づくり」を追加します。
22	●				羽黒	現行計画の（単位）課題①3つ目について、一律の人数や規模で連携や統合を考えるのは少し強引だし難しいと思うので、（2期案）のとおり、まずは交流と協力体制への変更はいいと思います。しかしながら現状を考えると、交流と協力体制を構築していくことは急務だと考えます。ブレーキにならないよう進めていく必要があると思います。地区運動会や消防団などの単位も考慮して、交流と協力を進めて行くことも必要と改めて感じます。	2期計画では、「統合」から「交流」へハードルを下げ、段階的に地区運動会や消防団及びPTA関連の場において次世代を担う年代層間の相互扶助のネットワークを促進させ、これを土台に将来的に必要なに応じて近隣の自治組織間の組織再編等につなげる予定です。
23		●			朝日	防災施設としての十分な備品設置（人口割予算はやめる）	災害時に2次避難所や災害対応の拠点となる小中学校やコミュニティセンター、地域活動センター等の拠点避難所につきましては、避難生活に最低限必要な防災資機材として、非常用電源、夜間活動用照明、段ボールベッド、毛布等を整備しています。しかしながら、計画的に配備はしているものの毛布等は対象避難住民の数には足りず、ほかの避難所から融通することを原則として考えています。
24			●		朝日	生涯学習推進委員の質の向上を図る。思いのある自主性のある人材を選出する。	（広域）課題②に「意欲ある生涯学習推進員の掘り起こしを進め、研修の充実を図る」という取組を追加しました。
25	●				温海	アドバイザー職員制度はどのような仕事をするのですか。どこにいるのですか。	地区の要請に応じて、アドバイザー職員を派遣し、情報提供や助言等の支援を行っています（令和2年度は、16地区に32人の職員を派遣。地域ビジョン策定の取組への助言や地域課題解決への支援等）。温海地域では、昨年度に引き続き鈴地区に派遣しています。
26	●				温海	今迄通りの会の運営では乗り切れないものがあります。新しい会の運営ができるには何か良いアドバイスがあれば教えてください（地域婦人会）	単位自治組織と同様に、婦人会でも、事業内容の見直し、事業の棚卸し、組織の再構築、情報発信・収集強化による新しい担い手の確保などを行い、将来を見据えた持続可能な組織づくりなどが必要であると考えます。
27	●				温海	伝統行事の継承、世代間交流等地域コミュニティの機会や行事が新型コロナウイルスですべて中止となった。2021年がどのようなかわからないが今迄のようにはいかないと思われる。アフターコロナ後の地域コミュニティのあり方を今後模索していかなければならないのではないか。	地域コミュニティの場が奪われていることは重要な課題と認識しております。今後の地域コミュニティについてはコロナの状況を踏まえ、地域と行政が一体となり考えていかなければならないと考えています。

No	計画の柱				対象地域	委員意見・質問	事務局回答
	I	II	III	IV			
28		●			温海	災害は今迄の度を越えたものがかかる様な気がします。地震・津波・風・雨と避難訓練は参加していますが、冬の雪のある時や夜中の暗い時の避難となると思い通りに行かない事ができると思います。悪条件で避難等をシュミレーションして、細やかな避難の仕方を考えていかなければならないと思います。	災害はある程度予測できるものもあれば、地震のように予測することが難しいものもあります。日頃からの避難訓練に加え、悪条件での避難も想定し、各家庭での防災用品の備えについて検討する必要があると感じています。
29		●			温海	津波ハザードマップを活用した避難訓練だけでなく、2021年に新しくなる洪水ハザードマップの徹底と避難訓練が必要なのではないか。	洪水ハザードマップの徹底と避難訓練については、課題③リード文で全体的に説明しています。具体的取組の例として、温海地域特有の津波に対する避難訓練を掲げたものです。
30			●		温海	温海地域は各自治体に会費があり自治体毎の活動があります。それは今迄通りなくしてはならないと思います。有線放送は、TVの調子を伝えたり、停電があれば電気工事の修理の連絡をしてくれたりと遠く感じる行政より身近に感じ安心を早く与えてくれます。これから人口減になっていけば一番たよりになる所になると思っています。	温海地域固有の有線放送設備については、地域の重要な情報伝達手段だと認識しておりますが、老朽化により積雪や強風、塩害による断線等、年々修繕に要する経費が負担となっております。このため、今後ICT等を活用した新たな通信設備の配備について、自治会と行政とで検討していかなければならないと考えております。
31			●		温海	温海地域は4地区に別れているが、4地区の場合、小学校が同じであり、小学校と連携して行事を行なっている。アドバイザー職員がいろいろ推進してくれている。今年は新型コロナウイルス感染防止の観点から運動会、球技大会等中止になった。2021年も中止になるようだと今後できるのか心配である。	地域と学校が連携し行事を行うことは重要であり、コロナ禍による今後の活動については工夫が必要だと感じています。
32			●		温海	私達の住んでいる所は海山川温泉と資源はたくさんあります。そこでそれらを活かすにはと思った時に昨秋にキャンプの体験を通して感じた事で風・雨・波の音が新鮮に感じる事ができました。オールシーズン誰でも参加できるキャンプ施設や温泉を利用した滞在型のロッジ等があればアウトドア派の方々が利用するのだと思います。	豊かな自然を感じ、体験することは大切なことであり、貴重な意見として頂戴します。
33			●		温海	放課後子供教室を実施している。(鼠小)が地域住民と子供達とふれあえて大変良い試みである。リーダーもいろいろ工夫して文化や歴史、子供達が興味を持ってくれるような事も実施している。もっと地域の人達にスタッフとして多く参加してもらいたい。	(単位)課題④(12月の配布資料では課題⑤)取組例を「小学校及び中学校と地域との連携及び地域活動の推進」→「地域と学校の連携・協働によるコミュニティスクールの導入と地域学校協働活動等の推進」に変更しました。

No	計画の柱				対象地域	委員意見・質問	事務局回答
	I	II	III	IV			
34					全域	<p>何よりも、「地域ビジョンの策定とその達成のための5ヶ年計画書の作成」を行うことにより、多くの問題点が出され、悪さ加減が明確となり、その中から取組むべき課題が浮き彫りされ、どういう順位で取り組むか、どういう活動体制でいくか、どういう「しくみ」でPDCAを回しローリングしていくかなど、まずそれを周知していく必要があると思っています。そういう点では非常に参考となる「コミュニティの維持・発展」に寄与される「地域課題と取組の例」であると思います。しかし「地域ビジョンの策定とその達成のための5ヶ年計画書の作成」を行うには熱意と相当の労力と時間を必要とします。そのキーマンとなる方が自治会にいればよいのですが、市地区担当職員とその経験を持つ民間の方々でアドバイスできる方を派遣する制度を作ってはいかがでしょうか（鶴岡市地域防災アドバイザーのような制度）。そうしないと合言葉で終わってしまう感じがします。また、多くの自治会では3月の役員改選に向けてその準備に入っております。しかし、役員の成り手不足で行事を減らす、役員人数を減らす、隣組の再編を行うなど難儀している状態です。また、新しいことは出来るだけ避けたいという想いもあるようです。しかし、課題解決は逆に考えて非常によい環境にあるとも言えます。その中で、少なくとも自治会の新三役を始め、関係団体代表の皆さん、そして若い方々から担ってもらう必要がありますので、来期早々、時間を割いてでも、しっかりと説明会を行う必要があると思います。説明会といっても「取組の例」を棒読みするだけではなく、必要性、活用の仕方、関連団体の連携の重要性そして、地域ビジョンと5ヶ年計画策定の手順とフォーマット例などについて説明されたいかがでしょうか。</p>	<p>貴重な意見として頂戴します。</p>